

2016 年度平和カンパのご報告

パレスチナ・ガザ地区 ナワール児童館の活動

特定非営利活動法人

パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナ・ガザ地区、占領 50 年

1967 年の第三次中東戦争の結果、ガザ地区はヨルダン川西岸地区と共にイスラエルの占領下となりました。2017 年はその 50 年の節目になります。中東戦争の結果、多くの難民がガザに逃げ込み、現在も人口の 7 割が難民として暮らしています。

占領下のガザは度重なる戦火に見舞われています。特に 2014 年のイスラエル軍の軍事侵攻では 2,200 人を超す死者と甚大な被害が出て、当会も緊急支援カンパをいただいて支援を実施しました。しかしながら復興への道のりは遠く、現在でも 6 万人が避難生活を送り、22 万人に心理的なサポートが必要とされています。

復興を妨げている大きな一因は、10 年以上続いている封鎖状態です。人や物の出入りが厳しく制限され、生活物資や燃料、電力が不足し、生活は困窮し、産業も衰退しています。仕事はなく、42%（若者は 60%）という世界最悪の失業率が続く中で、将来の希望を見出すことが非常に難しくなっています。貧困世帯のさらなる困窮、家族関係の悪化、家庭内暴力や児童労働、心理的な回復の遅れ、学力低下など、家庭や子どもたちに様々な影を落としています。



戦争の傷跡が残る建物で暮らす

ナワール児童館での活動

当会と地元の女性団体が 2005 年に共同で開設したナワール児童館は、ガザ南部の貧困地域において、子どもや母親たちが安心できる居場所です。

- 週 5 日、午前と午後の 2 交代で、300 人の小学生が来館
- リクリエーション、スポーツ、パソコン、おもちゃ作り、絵画、遠足、映画鑑賞、補習クラス、理科実験、夏休みや冬休みの 1 日イベントなど多彩な遊びと学習の機会を提供
- 工作、音楽、伝統舞踊、創作劇、物語作り、子ども議会といった様々な表現活動にも力を入れている

子ども参加、地域密着、リーダーシップの育成などがナワール児童館の特色です。活動を通して、心理的な安定、学力の向上と自信の回復、主体的な企画や運営への参加など、子どもたちは力を取り戻し、伸ばしています。

公立小学校と連携して教員研修も 2016 年よりスタートしました。児童館活動や補習クラスの経験を活かして、魅力ある授業を展開できる学校教員を育成中です。

母親たちも週 1 日程度来館し、母親向けのワークショップに参加しています。心理的な課題のある子どもへの接し方や子どもに必要な栄養の摂り方など、母親たちのニーズ・関心に沿ったテーマを取り入れ、母親同士の交流やストレス発散の場にもなっています。

ご支援に感謝いたします

パルシステム東京からいただいた平和カンパは、画材、教育玩具、楽器、書籍、学習教材、スポーツ用品、演劇の道具や衣装、工作などのワークショップ材料、おやつ、母親や地域向けの講師や心理専門家への謝金、遠足費用、児童館の水光熱費、通信費、地域活動の交通費、現地スタッフの給与などに活用させていただきました。

ガザは人口増加率が高く、現在の 190 万人は 2020 年には 200 万人に、2050 年には 480 万人にも上ると言われています。その人口の過半数が 16 歳以下の子どもたちです。ご支援に感謝申し上げますとともに、将来パレスチナの社会を担う子どもたちの可能性を育み、子どもや母親たちの居場所となっているナワール児童館への息の長いご支援をお願い申し上げます。

